

# 恵みと真理のニュース



2013年9月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

教師の使命を与えてくださりよく担えるように

恵みと権能をくださる神様に感謝を捧げます。

イエス様を救い主として信じて告白し教会に通いながら一時期私の信仰生活には進歩と発展がなかったです。相変わらず人間的な高慢と意地が残っていて御言葉を聴いても神様の御心を完全に悟らなくてたまには礼拝も休んで世の喜びに落ちた時もありました。大変な事ができると人の知恵と能力だけ頼り解決しようとしてました。奉仕する機会が与えられても受動的な態度でした。そんな私の信仰生活に驚く変化が起きました。聖霊洗礼を受け執事の職分を受け積極的に教会で奉仕を始めてからです。区域長達が祈りする時にいげんで祈る声を聞いて私もいげんで祈ることを願い聖霊洗礼といげんの賜物を愛し求めました。そして区域長の祈り会に参加して一緒に祈る時間切に祈って聖霊洗礼といげんの賜物も受けました。その日の後から世のすべてのことが違って見えるようになりまし。普通に見すぎた木と花が新たに見え草の虫の音と鳥のさえずりも普通に聞こえなかつたです。世の全ての満物を作り限りない知恵と権能で収め摂理する神様を畏れなければなりません。私の罪の贖いのためこの世に生まれ全ての苦難を受け十字架にかけ死なれた主を考えるとその恵みと愛に感激しました。主の十字架、救い、永生、天国のような単語を聞くだけでも感動を受け涙が出て胸がいっぱいになりました。礼拝と教会の中心で生活しながら御言葉の恵みを愛するようになりまし。そして、世の全てのこの楽しみがなくなりました。教会で執事の任職請願を受ける時ちょっと迷いましたが私を導いた区域の勳士と教区長から励まれました。神様から職分をくださるならば感謝する心で受けもつと責任感を持って仕える心で勇気を出し任職審査の請願書を提出しました。審査が通過してついに執事の任命を受けるため行く日私の心がとても嬉しくて神様に感謝を捧げました。区域の聖徒からも同じ心で祝って

らい祝福されました。執事の職分を受けてからどんな苦難と迫害と誘惑があっても大胆な信仰を持って全て神様に感謝しながら頑張って福音を伝える生活をしました。弱くて足りないが積極的に主と主の体である教会のため献身する願いも出来て奉仕する部署のためにも祈りました。祈っている時に教会学校の幼稚部で教師を集めるの広告を見ました。始めは私の子供を幼稚部につれていくと嬉しく向かい愛と真心で世話をし祝福してくれる先生達を見ながら“あの方たちはとく別な方で私のような足りない人がどうやって教えるのができるか？”と考えました。ところが祈りをする時に教師を集めるその文句が大きく見えて奉仕をする先生達の姿がもっとまぶたにちらちらしました。祈りをすればするほど教師で奉仕することを願い、ただ今私が知恵と能力が足りなくても神様の御心ならば担える知恵と能力を神様がくださる確信が出来ました。それで、慎重に先生に意見を伝えたら先生が嬉しく向かいながら歓迎してくれました。最初は旦那と子供達が大変だったので心をつくして奉仕するのが難しかったです。昼の時間だけ奉仕をしましたが教師として使命と欲心が出来て旦那と子供に理解と協力を得て奉仕する時間を増やしました。神様は旦那の心を動かして下さって責任感を持って主日の一日を献身するようになりまし。教会の一番大きい行事だと言える夏の聖書学校で私が主題のコースプログラムの担って進行すると完全に神様に委ねてやろうとしたが一方には心配になりました。一ヶ月間早天の祈り会に行き断食祈りを捧げました。神様は私に“わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしはすべてが可能です。”(フィリピの信徒への手紙 4:13)御言葉をくださり勇気と力をくださいました。子供の前に立つ時にきらきら輝いている子供達の目を見ながらその間の心配と不安がさっぱりなくなりました。終わってから子供達の一つの声で習った通りに福音と真理を各自の信仰を告白する時に言葉

で表現できないほどの感動を受け私も知らずに涙が出ました。教師の職分を修行すればたまには大変な時もあります。そんな時にも祈りをすれば神様は力を与えてくださり足りないことのために祈りをすればもっと多く与えてくださいます。

こんな体験を通して私はただ主の道具だけで全ての事を行なう方は神様である事を悟って神様に栄光を捧げます。伝道士と他の先生たちの相変わらず愛と熱情と子供の純粋な信仰と言行を通してたくさんの恵みを受け神聖なやりがいも得ます。教会学校の教師として体験して楽しむやりがいは世のどこでも得られません。一般の学校には人材を育てる立派な教師が多いです。その方々に比べると私は才能も足りなくて特に自慢する事もないです。しかし、神様はこんな私を単純に世の知識を伝え教える教育だけでなく、子供たちを永遠な命と幸せな世界で導き清い神様の献身者として養育する貴重な教育の使命をくださって使われてくださいました。神様の恵みに感謝するだけです。教会学校の教師で奉仕する心の願いがある聖徒は迷わなくて神様がくださる使命だと思っ従順してください。神様が驚くべき恵みと愛を与えて下さると思います。私は教師として奉仕して5年になりました。教師のセミナーで25年30年をひたすら信仰と愛で献身して勤続賞を受けた方を見ながら私もいつも相変わらず主を愛し主の心で学生たちを愛しながら主を喜ばせ仕え献身しながら生きる事を願います。与えられた子供達を羊がいの心で抱きしめて子供達の心で確実に福音を伝えます。そして、主の愛を伝え恵み充滿、御言葉の充滿、聖霊充滿をくださる事を祈り神様に全ての栄光を捧げます。天国で受ける賞と冠を考えながら神様の御言葉に従順し教師の使命を真面目に忠誠した姿勢で担えます。ハレルヤ!



【信仰コラム】

真理(しんり)があなたをおよがせてあげよう

…奴隷はいつまでも家にいる者ではない。しかし、子はいつまでもいる。  
36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである(ヨハネによる福音書 8:32-36)

人類(じんるい)の歴史(れきし)は抑圧(よくあつ)と逮捕(たいほ)に対(たい)する闘争(とうそう)の歴史(れきし)であり、また、自由(じゆう)な社会(しゃかい)建設(けんせつ)のための努力(どりょく)の歴史(れきし)です。人間(にんげん)の人生(じんせい)にとって自由(じゆう)はこの上(うえ)なく大事(だいじ)です。神(かみ)様(さま)はすべての人(ひと)が必(かな)らず得(え)なければならぬ自由(じゆう)についておっしゃいました。もしこのような自由(じゆう)を得(え)ることができなければ、他(た)のどのような自由(じゆう)を享受(きやうじゆ)としても不幸(ふこう)な人(ひと)になってしまいます。の滅亡(めつぼう)に至(いた)るからです。イエスがユダヤの宗教(しゅうきょう)指導(しどう)者(しゃ)との論争(ろんそう)を通(つう)じて人(ひと)が必(かな)らず持(も)つてこそ、しても持(も)つことができる自由(じゆう)に聞(かん)して明(めい)く示(しめ)しました。“真理(しんり)を知(し)って真理(しんり)があなたを自由(じゆう)にあげよう。”とおっしゃいました。すると彼(かれ)らはただちに“私(わたし)たちがアブラハムの子孫(しそん)と人(ひと)の紙(かみ)になつたことがないからどうして私(わたし)たちが自由(じゆう)に立(た)つとして居(ゐ)るのか。”と反発(はんぱつ)して出(で)ました。しかし、イエスは政治(せいじ)的(てき)な肉體(にくたい)的(てき)な隷屬(れいぞく)とは別(べつ)の次元(じげん)で鐘(かね)の実状(じつじょう)をおっしゃいました。人(ひと)が独裁(どくさい)体制(たいせい)の下(もと)で暮(く)らしていても民主(みんしゆ)社会(しゃかい)に生(い)きていてもすべて罪(ざい)の下(もと)で売(う)れており、罪(つみ)の紙(かみ)されて居(ゐ)るのは同(おな)じです。罪(ざい)の卒(そつ)された状態(じやうたい)は人間(にんげん)のどのような努力(どりょく)や制度(せいど)的(てき)な

改善(かいぜん)からも感(かん)じさせられない事実(じじつ)です。神(かみ)様(さま)は、真理(しんり)だけが私(わたし)たちを自由(じゆう)にするとしました。人(ひと)が真理(しんり)により自由(じゆう)を得(え)るためには真理(しんり)が何(なに)かを知(し)るべきです。イエスがおっしゃった真理(しんり)は科学(かがく)的(てき)探求(たんきゆう)へと見(み)つけたり、哲学(てつがく)的(てき)思索(しそく)につ(つ)けたり、種類(しゆるい)的(てき)なものもありません。そうだと真理(しんり)とは遠(とお)く離(はな)れていたり、探(さが)しにくいことがありません。真実(しんじつ)は、神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)です。しかし、真理(しんり)は、イエス様(さま)の中(なか)にあります。神(かみ)様(さま)がすぐに真理(しんり)です。“真理(しんり)があなたを自由(じゆう)にあげよう。”したイエス様(さま)の言葉(ことば)は違(ちが)って言(い)って“私(わたし)があなたを自由(じゆう)にあげよう。”とは言葉(ことば)です。聖書(せいしよ)に記録(きろく)された言葉(ことば)を通(つう)じて私(わたし)たちが、イエス様(さま)を分(わ)かるようになって、イエス様(さま)を信(しん)じて迎(むか)へよう。イエス様(さま)がくれる奇異(きい)で恵(めぐ)まれた自由(じゆう)を享受(きやうじゆ)するようになります。イエスさまが“本当(ほんとう)に本当(ほんとう)にお前(まえ)に言(い)うところだが罪(つみ)を犯(おか)す人のみならず罪(つみ)の卒(そつ)であるか。”ともおっしゃいました。‘罪(ざい)’という原語(げんご)は‘ハマルティア’なのに‘標的(ひょうてき)を当(あ)てないこと、的(てき)を当(あ)たり外(はず)れを意味(いみ)み’です。神(かみ)様(さま)が人類(じんるい)の祖先(そせん)アダム(あだむ)に下(くだ)さった標的(ひょうてき)は“禁断(きんだん)の木(こ)の実(み)を取(と)って食(た)べてはいけません。”ということです。ところでアダムは神(かみ)様(さま)の言(い)いにつ(つ)け、そむいて禁断(きんだん)の木(こ)の実(み)を食(た)べました。それで、アダムは犯罪(はんざい)者(しゃ)になって、アダムの子孫(しそん)はみんな罪人(ざいにん)に生(う)まれるようになりました。罪人(ざいにん)の人生(じんせい)に、神(かみ)様(さま)が新(あた)らしい

(てき)をくれました。良心(りょうしん)の法(ほう)、律法(りつぽう)そして救世(きゅうせい)主(しゆ)に対(たい)する信賴(しんらい)のものです。律(りつ)法(ほう)と良心(りょうしん)によって浄罪受(う)けて神(かみ)様(さま)の審判(しんぱん)を免(まぬ)かれない人生(じんせい)に、神(かみ)様(さま)が救(すく)いの道(みち)を開(ひら)いておきました。救世(きゅうせい)主(しゆ)に対(たい)する信賴(しんらい)の法(ほう)という的(てき)をくださいました。神(かみ)様(さま)の審判(しんぱん)を免(まぬ)かれない罪人(ざいにん)な私(わたし)たちを救(すく)うために、神(かみ)様(さま)が御子(みこ)イエス・キリストを世(よ)に送(おく)ってくれました。イエス・キリストが私(わたし)たちの罪(つみ)を担当(たんとう)して十字(じゆうじ)架(か)を背負(せお)いられて商売(しょうばい)されたが、また復活(ふっかつ)し中心(ちゆうしん)で彼(かれ)を信(しん)じてるすべての者(もの)が罪(つみ)許(ゆる)す受(う)けて義理(ぎり)だ艦(かん)を得(え)て、永生(えいせい)を得(え)て天国(てんごく)に入(はい)るようになってくれました。イエス様(さま)だけがいただける自由(じゆう)は罪(つみ)における自由(じゆう)と併(あ)わせて罪(つみ)と関連(かんれん)されたすべてのものたちからの自由(じゆう)まで含(ふく)まれたものです。鬼(おに)の権勢(けんせい)で、死亡(しぼう)の勢力(せいりょく)で、呪(のろ)いから、靈的(れいてき)な無知(むち)から自由(じゆう)を得(え)てくれます。真理(しんり)のイエス・キリストを出迎(でむか)えた人(ひと)だけが本質(ほんしつ)的(てき)な自由(じゆう)を得(え)て本当(ほんとう)に自由(じゆう)人(じん)になります。皆(みんな)さんは、キリストによって自由(じゆう)を得(え)た自由(じゆう)人(じん)らしく明(あ)かるく輝(かがや)いた心(こころ)を持(も)つて神(かみ)様(さま)を嬉(うれ)しいようにしようと努(つと)めながら生(い)きていけるように願(ねが)います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」



# 神霊な者と神霊な生活



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

神霊だという話は非キリスト者たちには疎い感じを与える言葉です。私たちが使う言葉の中にはどんな分野や組織体の構成員たちの間で使われる用語があります。救贖、贖良、代贖、攝理、再臨、携拳、復活、宝血などの言葉は教会でたくさん使います。「神霊だ」という用語もそうです。「神霊な飲み物」「神霊な盤石」「神霊な事」「神霊な身」「神霊な者」「神霊な福」「神霊な歌」「神霊な知恵と聡明」「神霊な家」「神霊な祭祀」(コリント人への第一の手紙 10:4, コリント人への第一の手紙 14:1, コリント人への第一の手紙 15:44, エペソ人への手紙 1:3, エペソ人への手紙 5:19, コロサイ人への手紙 1:9, ペテロの第一の手紙 2:5)という言葉が聖書に記録されています。すべての人は必ず「神霊な者」にならなければならないし、また「神霊な生活」をしなければなりません。

すべての人に一番重要な急先務は神霊な人になるのです。コリント人への第一の手紙 2 章を見ると人を二つの部類で区分しています。「肉に属した人」と「神霊な人」です。「肉に属した人」と言うのはイエスキリストを信じない人々をひっくるめて称える名称です。新約聖書エペソ人への手紙で 2 章に肉に属した人の状態を記録しておきました。「さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪によって死んでいた者であって、かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って、歩いていたのである。

また、わたしたちもみな、かつては彼らの中にいて、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。」(エペソ人への手紙 2:1-3) しました。「肉に属した人は人」は本質上震怒の子として永遠な滅亡に処するようになります。そうするので「肉に属した人」という言葉は呪いに属する言葉です。

「神霊な人」と言うのはイエスキリストを信じる人を称える呼称です。「神霊な人になる道」は一つだけです。イエスキリストを自分の救世主に信じなければなりません。「イエスキリストは救世主だ。」という言葉は「イエスキリストだけが救世主だ。」という意味を持っています。この事実を明確に啓示した聖書の言葉たちがたくさんあります。「イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネによる福音書 14:6), 「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒行伝 4:12)。聖書に啓示されたそのままのイエスキリストを信じる人は自分の存在の土台と深みで起きる変化を経験するようになります。魂に起きる変化です。罪人が義人になって、悪魔のしもべが神様の子になります。イエスキリストの補血で罪洗い受けて聖霊で生まれかわるようになります。「神霊な人」と言うのはこんな変化を受けた人に対する呼称です。

「肉に属した人」が「神霊な人」になることは奇妙で驚きべきです。「神霊な人」という呼称は極めて恵まれた名前です。

次に重要なことは神霊な生活に力をつくすのです。「神霊な生活」はクリスチャンの生活を特定した言葉であります。それでは何が神霊な生活なのかをよく見ます。

## 第一、礼拝するのを楽しむのが神霊な生活です。

すべての信じる者の先祖だと呼ばれるアブラハムは礼拝させていただくのが楽しみがりました。アブラハムは彼がとどまる所ごとにその所で壇を積んで礼拝を差し上げました。アブラハムは礼拝をすべての事を決める要素にしました。神様の命令に順従してメソポタミアからガナアンに移住したアブラハムは財産が増えて大きい金持ちになりました。甥ロツも羊群れと牛群れが多くなって彼らが一緒に暮すにはとても狭かったです。するとアブラハムがロツと別れることに決断をしました。ロツに選択の優先権を与えるとロツがヨダンすべての野原を選んで立ち去りました。その所には罪悪が極甚なソドムとゴモラがあったがロツは牧畜するのに有利な方を選びました。そして結局ソドムの城に入って行って暮しました。ロツの家族たちはソドム城の人々の影響を受けて礼拝をなさりにするようになりました。ソドムとゴモラに罪悪が極まると神様が審判なさいました。ロツはソドムとゴモラ城が滅亡される時財物を皆失って妻は塩の柱になってしまう患難を経験しました。一方にアブラハムは神様を仕えて礼拝する仕事を最高の目標と課題にしました。アブラハムはロツと別れてヘブロン山地を選びました。ヘブロンに暮したからは流れる川がいなかったし牧草が豊かではなかったです。時によって適切に雨が降ればこそ水があって草が生えました。だからいつも神様を頼らなければならなかったです。世俗的な生に濡れるようになったロツは財物をすべて忘れてしまって惨めになったが神様を仕えて礼拝することを最高の目標と課題にする神霊な生活をしたアブラハムは昌盛するようになりました。アブラハムのように神様の言葉を聞いて祈って讃嘆する礼拝を楽しむのが神霊な生活です。

## 第二、自分の能力と手腕より神様の助けることと福を授けるのを頼って慕うのが神霊な生活です。

ヤゴブとエサウの生活態度を比べて見ればその教訓を得ることができます。エサウとヤゴブはイサクとリベカの間生まれた双子兄弟です。では肉身の能力をあまり信じました。彼は胆大で活達でした。その弟ヤゴブより抜群な点が多かったです。彼は遊泳術がすぐれて手腕があって強い体力で狩りにも上手かったです。しかしこのようなものなどがむしろ彼に大きい弱点になりました。では自分をあまり信じました。神様がアブラハムの子孫に約束した偉い廊下あまり関心事になることができなかつたです。それで彼はかゆ一杯に長子の名分を売ってからもその瞬間満足しました。ヤゴブはエサウより肉身の能力は劣等でした。しかし神様の福を慕う心、神様の助け下に住もうとする心が切実でした。ヤゴブは神霊な福を慕って神神しい神様の福を追い求めたから福を受けました。人間の手腕と能力、遊泳術を頼って神様の助けることと福を軽んじる思うことは世俗的生活態度です。神様の福を何より珍しく思って慕うのが神霊な生活態度です。

## 第三、神様の再臨を切に望みながら生きて行くのが神霊な生活です。

神様の再臨に関する徴兆たちが予言されているから聖徒たちはその再臨が切迫したということが分かります。誰もイエスキリスト様が再臨なさる日付が分かることはできないが確かなことは神様がまさしく再臨なさるといふのです。神様の再臨を常に思って、切に望む聖徒はいつも覚めて生活します。

## 第四、神様のほめ言葉と賞を望みながら生きて行くのが神霊な生活です。

ヨハネ啓示録 22 章には「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。」(ヨハネの黙示録 22:12)はイエスキリスト様の言葉が記録されています。主の前に立つ日誉められて賞を受けるのを期待しながら生きて行く聖徒は主の仕事に力をつくしながら暮すようになります。自分が持ったことを虚しい仕事に浪費しないで福音を伝えて聖徒を仕える事に使うようになります。

## 五番目、天国を慕いながら生きて行くのが神霊な生活です。

「信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。」(ヘブル人への手紙 11:8~10), 「これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。

そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示している。もしその出てきた所のことを考えていたなら、帰る機会があったであろう。しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかつた。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。」(ヘブル人への手紙 11:13 下~16)。アブラハムはガナアンへ来てすごい金持ちになりました。ところでいつも天幕に暮しました。これは彼の故郷が天で旅人と行人で外国に住んでいるということを示すためのことでした。だから神様が彼らを喜んで彼らのために、天に城を予備なさいましたとおっしゃいました。聖徒の皆さんはこの世の中を生きる間旅人と行人で住むことを忘れなくなるように願います。それで天の都城、私たちの主イエスキリスト様が予備なさいました父の家を常に慕いながら暮すように願います。これが神霊な生活です。

キリスト教という宗教を好んで宗教生活を熱心にしても肉に属した人に過ぎないです。イエスキリストを信じて聖霊で生まれかわった人だけが神霊な人です。神霊な人は神霊な生活をしようと力をつくさなければなりません。神霊な生活をしようと決心して力をつくす人に聖霊が神霊な生活に深く進むように導いて手伝ってくれます。皆さんは皆神霊な人であり神霊な生活をする聖徒になるように願います。